



北海道ブロック長
札幌市立北都中学校 教頭
野田 隆之

北海道公立学校教頭会は、広い北海道を近隣の地域でまとめた6つのブロックで組織されています。その各ブロックには市町村の教頭会があり、今年度は全道22の単位教頭会に属する1497名が会員となっています。創立58周年を迎えた本会ですが、広域な北海道の特徴を踏まえながら、会員一人一人の明日への活力につながる時宜に応じた研修活動に取り組んでいます。

【活動方針】

北海道公立学校教頭会は、教頭の立場から学校管理運営についての研修を推進し、職能の向上と学校教育の振興に寄与するとともに、会員相互の福祉増進を図ることを目的としています。その目的を達成するために次のことを行っています。

- (1) 学校管理運営及び教育上の諸問題についての研究・調査に関すること。
 - (2) 研究大会、研修会等の開催に関すること。
 - (3) 研究・調査資料等の刊行に関すること。
 - (4) 教頭の地位向上と会員の福祉・厚生に関すること。
 - (5) 会員相互の連絡、情報の交換等に関すること。
 - (6) 他教育諸団体との連絡・連携に関すること。
 - (7) その他、本会の目的達成のために必要な事項に関すること。
- 【事業報告】
- 5月19日（札幌市）令和5年度総会研修会
 - 5月29日（札幌市）第1回地区事務局長・地区研修担当者合同研修会
 - 6月23日（札幌市）第1回理事研修会
 - 11月24日（札幌市）第2回地区事務局

長・地区研修担当者合同研修会
令和6年2月16日（札幌市）第2回理事研修会

【研究大会の概要】

- 令和5年度第56回北海道公立学校教頭会研究大会 道北大大会
- 期日 令和5年9月15日（金）16日（土）
- 会場 道北アークス大雪アリーナ/旭川市大雪クリスタルホール/旭川地場産業振興センター
- 内容 開閉会式・研修部オリエンテーション・記念講演・分科会
- 記念講演 演題「夢と志をもち 未来を切り拓く力」
講師 井上雅之 氏（株式会社オアシヤン代表取締役）
- 分科会 6課題8分科会 各ブロックの教頭会による実践発表をもとに研究協議

【成果と課題】

- 成果
 - ・今年度の研究大会は、4年ぶりの完全参集型で開催することができ、全道からおおよそ800名近くの参加がありました。記念講演、分科会ともに、直接顔を合わせているからこそその一体感を感じる中、会員同士の思いや考え、情報などを双方向に交流するなど、成功裏に終えることができました。また、今回は初めて4地区教頭会の共同開催という形で実施し、距離と時間、組織を超えて連携し合い、地区ごとに係分担を決めるなど、効率的に計画・準備を進めてこられたことも一つの成果と捉えています。
- 課題
 - ・今後も各地区教頭会の会員の人数が減少していく中、研究大会を持ち回りで実施する際の実行委員会の在り方や、大会会場、さらには参加者の宿泊施設の収容力等を十分検討して、円滑な運営ができるようにする必要があると考えています。



東北ブロック長
福島市立北信中学校 教頭
村上 淳

東北地区小中学校教頭会は、福島・宮城・山形・秋田・青森5県の教頭会と若手県の副校長会で組織され、現在の会員数は2588名です。各県とも、教頭及び副校長の密接な協調を保ちつつ、教職及び副校長職としての研修を図り、研修成果を生かしながら、各県教育の一層の向上に資する活動を推進しています。

【活動方針】

本会は、各県単位教頭会・副校長会が職能研修団体としての役割を發揮しながら、会員の資質を高めるための研修を推進し、教育の充実振興に寄与することを目的とし、その達成のため、以下の事業を行っています。

- (1) 各県小中学校教頭会・副校長会の密接な連絡提携に関すること
 - (2) 研究大会の開催、研究物の刊行に関すること
 - (3) 研究の振興に関する調査・研究に関すること
 - (4) その他、本会の目的達成に必要なこと
- 【事業報告】
- 5月25日 第1回理事研修会（参集）
 - 5月26日 事務担当者研修会（参集）
 - 8月3・4日 全国大会・石川大会（ハイブリット）
 - 8月31日 研究部長研修会（参集）
 - 10月12日 山形大会（オンライン）
 - 11月8・9日 東北大会福島大会（参集）
 - 12月6日 宮城大会（オンライン）
 - 1月25日 第2回理事研修会
- ※岩手、秋田大会は隔年開催、今年度なし
- 【研究大会の概要】
- 第43回東北地区小中学校教頭会研究大会 福島大会

○記念講演

演題 「『轍をゆくな。轍をつくれ』」
講師 東京藝術大学教授 箭内道彦氏

○分科会 5課題6分科会

○その他

- ・実行委員会の運営にGoogleを活用し、情報共有の効率化、円滑化を図った。
- ・受付にQRコードを導入した。
- ・大会に関する感想や意見を、Googleフォームで集約した。

【成果と課題】

- 成果
 - ・4年ぶりの参集型開催、分科会での熱気溢れる協議が最大の成果。東北の仲間と語らう場の設定がいかに大切かコロナ禍を経験した今、改めて実感させられた。
- ・箭内氏は、クリエイティブディレクターとして、社会の第一線で多岐にわたって活躍されている。「広告することは応援すること」その思想背景や行動指針などを、具体的な映像作品や気さくなトークで伝えていただいた。
- ・社会に開かれた教育課程の実現に向け、副校長・教頭は、学校現場の第一線で中核的な役割を担う。学校で最も多忙な副校長、教頭こそ、日常を離れゆとりをもって、異分野体験をする機会を意図的に設定し、社会に対する視野を広げていく必要がある。東北の仲間と語らい、箭内氏の講演を拝聴することで、私自身、これまでになく感動や衝撃を受けるとともに、今後の教職人生への勇気と希望をいただいた。
- 課題
 - ・福島大会は、4年ぶりに参集型で開催することを目標に取り組んだ。その実現には、郡山市教頭会の皆さまのご尽力なしには、到底あり得なかった。働き方改革との兼ね合いで、ICTの活用を図るなどの工夫を試みていただいたが、負担過重は否めない。参集のメリットとオンラインのメリットを考え、運営を検討していく必要がある。



関東甲信越ブロック長
目黒区立第十中学校 副校長
牧野 潤子

関東甲信越地区公立学校教頭会は、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、山梨県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県の9都県で組織され、今年度の会員数は8334名です。各都県の教頭会・副校長会がそれぞれ専門性や社会的地位の向上を目指して様々な活動に取り組んでいます。これまでに構築されてきた各都県の研究・研修の成果を継承し、それをさらに発展させるべく日々研鑽に努めています。

【活動方針】

- (1) 教育の発展に寄与するため「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」を主題に研究の推進を図り、積極的な組織活動を展開する。
- (2) 副校長・教頭の職責に見合う処遇改善や教育諸条件の充実・発展を図るため、全国公立学校教頭会との連携を密にして、その実現に向け努力する。
- (3) 長野県の教頭を会員に組織化するための継続的な活動を展開する。

【事業報告】

- 6月15日(木) 16日(金) 関東甲信越地区公立学校教頭会東京大会第1回役員会、理事会
- 6月29日(木) 提言者研修会 オンライン 各分科会協議、柱立てを決定
- 11月15日(水) 関東甲信越地区公立学校教頭会東京大会第2回役員会、理事会 東京大会の運営について 日程・全体会・文化会等 参加者、大会宣言、その他 令和6年度山梨大会について 参加要請数、山梨大会予算書(案) 令和6年度行事予定(案)、山梨大会(第1次案内)
- 令和7年度全国(関東甲信越地区) 研究大会茨城大会について
- その他 全校教総会・理事会担当について

て 令和6年度以降の開催・提言都県の確認

- 11月16日(木)・17日(金) 第64回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会東京大会
- 12月7日(木)・8日(金) 事務局連絡会
- 2月8日(木)・9日(金) 関東甲信越地区公立学校教頭会東京大会第3回役員会・理事会
- 2月29日(木) 関東甲信越地区公立学校教頭会東京大会監査会(場所・東京大会事務局)
- 日時未定 山梨県との事務引き継ぎ

【研究大会の概要】

- 第64回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会東京大会
- 期日 11月16日(木)・17日(金)
- 会場 新宿区ベルサール高田馬場 他 5カ所12会場
- 内容 一日目 開会行事 記念講演 二日目 分科会 閉会行事(大会宣言・次期開催県挨拶)
- 記念講演 演題「和」〜信じ抜く力〜 講師 西村 徳文氏 元千葉ロッテマリーンズ監督 元オリックスバファローズ監督
- 分科会 5カ所12会場 提言1午前、午後各1提言 質疑応答、グループ協議、グループ発表、講評・指導助言

【成果と課題】

- 成果
 - ・分科会では課題に即した提言であり、グループ協議が充実した、時間配分もよかつた、参集型で実施したので協議を深めることができたという意見が多かつた。
 - ・記念講演では人材育成の話を中心に講演していただいたので役に立つ講演だった。質問タイムもあり、講演が盛り上がった。
 - 課題
 - ・分科会会場が分散し、分科会責任者に負担が大きかつたので、副責任者を置くなど複数での対応が必要であつた。また会場によって設備に違いがあり、それぞれ確認が必要で煩雑であつた。連絡手段にも工夫が必要であつた。



東海・北陸ブロック長
金沢市立西南部小学校 教頭
大宮 弘太

東海・北陸地区公立学校教頭会は、三重県、富山県、愛知県、岐阜県、福井県、静岡県、石川県の7県の教頭会で組織され、今年度の会員数は4048名です。各県の単位教頭会は、政策提言能力を備えた職能研修団体として、これまで積み上げてきた研修の成果を継承し、社会的地位の向上や専門性を高めるための活動を推進しています。

【活動方針】

本会は、会員相互の連携を図り、教頭としての資質を高めるための研修を推進するとともに、教育の充実及び振興に寄与することを目的としています。その目的を達成するために以下の視点に基づき活動を進めています。

- (1) 教頭・副校長の使命に徹し、常に研鑽に励み、識見を高め、視野を広め、資質の向上に努める。
- (2) 会員相互の信頼関係を深め、連携し、たくましく明日を創造する児童生徒の育成に努める。
- (3) 東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会において、各県の研究成果を集約する。
- (4) 教頭・副校長としての職務内容を明確にするとともに、教育環境の整備・充実に努める。
- (5) 教育関係諸機関・教育諸団体との連携を図り、教育上の諸問題の解決に努める。

【事業報告】

- 5月26日 東海・北陸地区公立学校教頭会事務担当者会(石川県金沢市 参集)
- 6月23日 第1回東海・北陸地区公立学校教頭会役員・理事会(石川県金沢市 参集)

○8月3日 第1回東海・北陸地区公立学校教頭会役員・理事会(石川県金沢市 参集)

- 1月26日 第3回東海・北陸地区公立学校教頭会役員・理事会(三重県津市 参集)

【研究大会の概要】

- 第65回全国公立学校教頭会研究大会石川大会兼 第51回東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会石川大会(ハイブリッド)
- 期日 令和5年8月3日(木)・4日(金)
- 会場 金沢市内ホテル 他 7会場
- 内容 一日目 開会行事・シンポジウム・記念講演 二日目 分科会・閉会行事
- 記念講演 演題「豊かな感性を育む場所をつくる」講師 長谷川 祐子氏
- シンポジウム テーマ「ふるさとに誇りをもち 未来を切り拓く 心豊かな人づくりを目指す」これからの学校運営の推進」
- コーディネーター 田村 学 氏
- シンポジスト 住田 昌治 氏 長谷川 明子 氏 島谷 千春 氏

【成果と課題】

- 分科会 7課題10分科会
- その他 全体会のライブ配信・分散開催
- 成果
 - ・「提言やグループ協議での全国各地の教頭との交流や情報交換が有意義だった、学校運営に生かしたい」など、満足感を得ていたことができた。持続可能な研究大会を見据え準備した。コンパクトな開会行事。一次案内・二次案内等のペーパーレス化。開始時刻がゆっくりで、終了時刻が早かつたことは、他県参加者にも好評であつた。
 - 課題
 - ・オンライン参加者の欠席の多さ、オンラインの不具合などハイブリッドならではの難しさをどう解消していくか。様々な方法で大会参加者へ連絡を行ったが、周知が行き届かなかつた。



近畿ブロック長
海南市立亀川小学校 教頭
清水 奈穂実

近畿地区公立学校小中学校教頭会は、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県で組織され、今年度会員数は4061名です。各府県の単位教頭会は、職能研修団体としての役割を認識し、これまで積み上げてきた研修の成果を継承し、さらに充実発展させるための活動を推進しています。

【活動方針】

- (1) 教頭の使命に徹し、学校教育の役割と今日的課題に正対し、常に研鑽を積み、見識を高め、視野を広げ、資質の向上に努める。
- (2) 会員相互の信頼と絆を深め、本会の組織・機能を充実させ、活性化を図る。
- (3) 教育関係機関・教育関係団体との連携を図り、教育課題の解決に努める。

【事業報告】

- 7月4日第1回理事会（和歌山市）
- 10月23日第2回理事会（和歌山市）
- 11月17日近畿公立学校教頭会研究大会 和歌山大会（和歌山市）
- 1月26日第3回理事会（和歌山市）

【研究概要】

- 第61回近畿公立学校教頭会研究大会 和歌山大会
- 期日 令和5年11月17日（金）
- 会場 和歌山県民文化会館・アパローム紀の国・和歌山県自治会館
- 内容 開会行事・記念講演・研究協議会（分科会）
- 記念講演 演題「脊柱管狭窄症の先端治療と医療機器開発を成功に導く Synchronicity」

講師 和歌山県立医科大学 名誉教授 吉田 宗人 氏

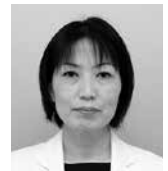
- 分科会 ①教育課程に関する課題 ②生徒指導に関する課題 ③組織運営に関する課題 ④人間尊重の教育に関する課題 ⑤教頭の職務に関する課題

【成果と課題】

○成果
・人数制限をなくした参集型の開催において、1357名の参加となった。他府県の副校長・教頭と活発な交流ができてよかったという声が多かった。特に分科会でのグループ協議において、熱のこもった交流となったようである。また、このコロナ禍の3年間で教頭に昇任された先生方から、初めて近畿教頭会研究大会に参加し貴重な経験となったという声が複数寄せられた。また、他の自治体の取組や副校長・教頭としての考え方や実践を交流する中で、勤務校へフィードバックを行うとともに、自分自身が教頭として視野が広がりが刺激を受けたことで意欲を取り戻すことができたという声もあった。

○課題

・分科会によって会場の形態・収容人数等が違いため、運営上、グループ協議が十分でなかったところもあった。
・11月中旬の金曜日開催のため、他の研究会や学校行事と重なったことで参加できないという報告があった。また、当日欠席者が136名になったことから考察すると、今後実施時期等を検討する必要がある。
・大会運営として、教頭会役員の入替わりが早く、取り組みの継続性を担保することが難しいと感じた。また、各府県事務局とともに引継ぎを十分行い、さらに改善・進化及び効率化を目指すしていく必要性がある。



四国ブロック長
徳島市助任小学校 教頭
藤長 あかね

四国地区小中学校教頭会は、高知県・愛媛県・香川県・徳島県の4県の教頭会で組織され、現在の会員数は、1236名です。「四国は一つ」の合言葉のもと、それぞれが職能研修団体として積み上げてきた研究・研修の成果を共有・継承しながら、本会の更なる発展を目指して、日々研鑽に努めています。

【活動方針】

本会は、四国地区小中学校教頭会相互の連絡提携と会員の資質向上を図り、四国地区の学校教育の振興と学校運営の合理化に努めることを目的としています。その目標を達成するために次の事業を行います。

- (1) 各県教頭会の情報交換と連絡調整
- (2) 研究大会の開催
- (3) 教育振興のための調査広報活動
- (4) 教頭職の勤務待遇改善
- (5) その他本会の目的達成のための事業

【事業報告】

- 6月24日 第1回理事会・代議員会・研究部長会・要請部長会（参集）
- 8月26日 第2回理事会・研究部長会・要請部長会（オンライン開催）
- 11月22日 第41回四国地区小中学校教頭会研究大会 徳島大会（オンライン開催）
- 令和6年2月3日 第3回理事会・研究部長会、第1回事務担当会（参集）

【研究大会の概要】

第41回四国地区小中学校教頭会研究大会

会 徳島大会

- 期日 令和5年11月22日（水）
- 会場 オンライン開催（ホスト会場：徳島県教育会館）
- 内容 開会行事、基調提案、記念講演、分科会、閉会行事

○記念講演 演題「人が育ち、幸せになる理念経営」〜月ワク度94%の『そこまでやるか』の組織づくり〜
講師 西 泰宏 氏（西 精工 株式会社 代表取締役社長）

○分科会

- 6分科会（1A、1B、2、5分科会）
- 特別分科会 演題「ポストGIGAへの指針」〜学校教育DXの検証と未来〜
講師 中川 斉史 氏（徳島県東みよし町立屋間小学校 校長）

【成果と課題】

○成果
・完全オンラインの1日開催としたことで、多忙な会員が、勤務場所を離れることなく参加でき、当日も約800名の会員の参加を得ることができた。さらに、専門の業者に配信関係の業務を任せることで、運営側の負担軽減も図ることができた。記念講演や特別課題の講演については、現場が抱える課題の解決に向けて参考になる内容であったとの感想が多く、好評であった。

○課題

・分科会のグループ協議の司会の振り分けを確実にするため、事前にZOOMサインイン等の仕方について周知したが、分かりにくいという意見があった。参集かオンラインか、ハイブリッドかという運営方法については、予算の面や運営側の負担等を考慮しながら今後も検討が必要。



中国ブロック長

松江市立乃木小学校 教頭

原田 淳

中国公立学校教頭会は、山口県、岡山県、鳥取県、島根県の4県で活動しており、今年度の会員数は1437名です。各県の実情に合わせて職能の研究と向上を図るために取り組んでいます。また、広島県とのつながりを保てるよう全公教と連携を取りながら復帰への働きかけを続けています。

【活動方針】

- (1) 教育諸問題の調査
- (2) 研究大会の開催
- (3) 教頭職の地位向上のための連絡・提携
- (4) その他本会の目的達成のために必要な事業

【事業報告】

- 6月22日(木)・23日(金) 第1回中国地区公立学校教頭会総会・役員会・専門部会・事務局部会(参集)
- 11月10日(金) 第43回中国地区公立学校教頭会研究大会島根大会(ハイブリッド)
- 2月16日(金) 第2回中国地区公立学校教頭会総会(オンライン)

【研究大会の概要】

- 第43回中国地区公立学校教頭会研究大会 島根大会
- 期日 令和5年11月10日(金)
- 会場 出雲市民会館・ニューウェルシテイ出雲
- 内容 (午前) 開会行事、記念講演(午後) 分科会、閉会行事

○記念講演 演題「子どもたちの未来に求めるもの」(外国語教育と異文化交流を通して)

講師 Dustin John Kidd (ダスティン・ジョン・キッド 氏) 島根大学教育学部講師

【成果と課題】

- 成果
 - ・昨年度に続くハイブリッド開催だが、今年度は島根県内会員を参集、県外は参集とオンラインの参加とし、限られた人数ではあったが4年ぶりに県外の会員と顔を合わせての協議を行うことができた。
 - ・記念講演では、修学旅行や掃除など、私たちが当たり前に感じていた日本ならではの教育活動の意義に気づかされた。また予測困難な未来を生きる子どもたちのために、失敗から学び、生かす経験や地元(ふるさと)に誇りをもつための経験を大切にするなどの提案をいただき、普段の教育課程を見直すきっかけとなった。
 - ・分科会ではオンライン関連での大きなトラブルもなく、オンライン参加者のチャットによる質問等も含め活発な意見交換がなされた。
- 課題
 - ・県外参集の人数は会場の広さから各県2%とした。その後の調整で人数を増やすことはできたが、今後の県外参集人数を会場に応じて検討していきたい。
 - ・オンライン参加者が提案者に直接意見交換したり、オンライン参加者同士のグループ協議の場を設けたりなど、オンライン機能を活用した分科会の運営方法を検討していきたい。



九州ブロック長

南風原町立北丘小学校 教頭

知念 英也

九州地区公立学校教頭会は、福岡県(小)、福岡県(中)、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の8県9教頭会で組織され、今年度の会員数は4156名です。これまでの各県で積み上げてきた研究・研修の成果を継承し、さらに充実発展させるための活動を続けています。

【活動方針】

- (1) 副校長・教頭職としての職責の重さを自覚し、研究活動を深め発展させるとともに、学校教育の資質向上と社会の変化に即応した学校運営の発展に努める。
- (2) 管理職としての副校長・教頭の職務内容を明確にするとともに、地位の確立とその向上に努める。
- (3) 九州各県の情報交換を密にするとともに、連携して組織の充実を図る。

【事業報告】

- 6月16日 第1回各県代表者会・総会(沖縄県那覇市 参集)
- 8月17日・18日 第63回九州地区公立学校教頭会研究大会沖縄大会1日目分科会(沖縄県那覇市 参集) 2日目全体会(沖縄県那覇市 参集)
- 11月22日 第2回各県代表者会・事務担当者会(沖縄県那覇市 参集)

【研究大会の概要】

- 第63回九州地区公立学校教頭会研究大会沖縄大会
- 期日 令和5年8月17日(木)・18日(金)
- 会場 那覇文化芸術劇場なはーと小劇場他4施設6会場(分科会)
- 内容 那覇文化芸術劇場なはーと大劇場(全那覇文化芸術劇場なはーと大劇場)

体会

○内容 1日目 分科会研究協議(7分科会) 2日目 開会行事・記念講演・閉会行事

○記念講演 演題「メタバース空間上のBodySharing」

講師 琉球大学工学部教授・H2L創業者・代表取締役 玉城 絵美 氏

【成果と課題】

- 成果
 - ・今年度の研究大会は九州各県から会員約900名が参加した4年ぶりの参集型大会となった。初参加の会員も多く、協議前半は静まり返っていたが、時間が経つにつれて笑顔が増え、身振り手振りを交えた活発な研究協議となった。離島の多い九州ブロックにおいては、対面できか伝わらない状況や細かな情報について知ることの大切さを、より一層強く感じ、改めて参集型大会の良さを実感する機会となったとの意見が多かった。
 - ・玉城氏の講演から、人間とコンピュータの情報交換を促進することで豊かな身体経験を共有し、固有感覚を体験していけることや文法を正しく伝えることが技術活用・発展に繋がっていくことなど、今後の教育の方向性についていろいろな示唆をいただいた。
- 課題
 - ・全体会や分科会において運営や時間設定等で細かな課題があった。分科会会場によっては、隣のグループとの間隔が狭く、周りの話し合う声でグループ発言者の声が拾いづらい状態であった等の意見があった。
 - ・より多くの会員参加が可能となるよう、オンラインを活用したハイブリッド型の開催を求める意見も多かったが、費用がかかるため本大会の予算では賄えないなど現実的に厳しい状況がある。